

検討テーマ1：「持続可能な国土」のイメージ等に係る論点

論点1：国土計画で重視すべき「持続可能性」とは何か。

- (1) 「持続可能性」という考え方に基づいて、既に様々な分野において各種の施策が実施されているところである。「持続可能性」という考えは、物質循環の健全性、自然環境との共生、経済的な繁栄、高質な生活の保障など多様な要素から構成されるものと考えられるが、この「持続可能性」という考え方を国土計画において展開する場合、どこに重点を置くべきなのか。また、本委員会では、どこに重点を置くべきなのか。
- (2) 「持続可能な国土」は、目指すべき国土像の最上位概念になり得るのか。ならないのなら、どういう要素が不足しているのか。
- (3) 空間計画である国土計画においては、全国一本だけでなく、地域ごとに議論を展開する点に大きな特徴があるものとするが、こういう考え方でいいのか。その際、特に地域ごとの議論が必要なものは何か。

論点2：「持続可能な国土」の超長期的なイメージ

- (1) 持続可能な国土（持続可能な形で利用、開発、保全された国土）として、どのような姿を想定すべきなのか。
例えば、我が国の環境負荷、物質循環、自然環境、国土利用、国土・地域の構造等を50年後にどのような状態にすることを想定するのか。
その際、海外、アジアとの関係についてはどのような状態を想定するのか。
- (2) 今後、「他国、他地域、後世代に負荷をかけない社会への転換」という考え方が重要になるが、日本国内、あるいは国内の各地域で、物質循環等を完結させることは極めて難しい。こうした中で物質循環等のバランスをどう考えればいいのか。